

令和8年
5月29日

病害虫発生予報 6月号

茨城県病害虫防除所

使い慣れた農薬でも、使用前には必ず農薬ラベルを確認しましょう。

～令和8年度茨城県農薬危害防止運動が始まります（6/15～9/14）～

< 目次 >

I. 今月の予報

【注意すべき病害虫】

水稻：縞葉枯病（ヒメトビウンカ）	1
【防除所レポート】イネ縞葉枯ウイルス保毒虫率の高い地点が認められています。	2
○水稻のいもち病の防除について	3
ナシ：黒星病	3
ナシ：ナシヒメシンクイ（第二世代幼虫）	4
【防除所レポート】ナシヒメシンクイの防除適期の予測	4
果樹共通：果樹カメムシ類	5
半促成ピーマン：アザミウマ類	5
夏ネギ：ネギアザミウマ	6

【その他の病害虫】

水稻、ブドウ、半促成ピーマン、夏ネギ、共通害虫	7
○コムギの適期収穫に努めましょう	7
○サツマイモ基腐病の防除対策	8

II. 今月の気象予報 9

最新の農薬登録内容は、農林水産省ホームページの「農薬登録情報提供システム」(<https://pesticide.maff.go.jp/>)で確認することができます。

詳しくは、茨城県病害虫防除所へお問い合わせ下さい。Tel :0299-45-8200

ホームページでは病害虫・フェロモントラップ・農薬関連情報をご覧いただけます。

<https://www.pref.ibaraki.jp/nourinsuisan/nosose/byobo/boujosidou2/>



※病害虫の発生状況や、適切な防除方法は地域により異なる可能性があります。病害虫の防除や農薬についてのご相談は、お住まいの都道府県にある病害虫防除所等の指導機関にお問い合わせください。

I. 今月の予報

【注意すべき病害虫】

水 稲

1. 縞葉枯病（ヒメトビウンカ）

[予報内容]

発生時期	発生量	発生地域
やや早い	平年並	県西地域、県南、 県央の一部地域

[予報の根拠]

- ① 5月中旬現在、県西・県南地域の小麦圃場におけるヒメトビウンカの10回振りすくい取り虫数は平年並である（本年値 29.1 頭、平年値 61.9 頭）。
- ② 5月に採集したヒメトビウンカ第一世代幼虫において、イネ縞葉枯ウイルス保毒虫率が5%以上の高い値であったのは、県西・県南地域 11 地点中 2 地点であった（次ページ防除所レポート 参照）。なお、1月下旬～3月上旬に採集した越冬世代幼虫における保毒虫率は、県西・県南・県央地域 15 地点中 8 地点で5%以上の高い値であった（令和8年3月18日発表 病害虫速報No.8 参照）。
- ③ 5月28日現在、有効積算温度から計算した水田におけるヒメトビウンカ第一世代成虫の産卵最盛日は、平年よりやや早いと予測される（次ページ防除所レポート 参照）。

[防除上注意すべき事項]

- ① 近年、育苗箱施用を行っても発病が多かった圃場では、ヒメトビウンカを対象とした薬剤の本田散布を行う。防除適期については次ページの防除所レポートを参照する。
- ② 育苗箱施用と本田散布の体系防除を行う場合は、薬剤抵抗性の発達を抑えるため、IRAC コードの異なる薬剤を選択する。
- ③ 無人航空機や乗用管理機等による本田散布を行うことができない場合は、投げ込み型の殺虫剤による本田防除を行う。
- ④ イネ縞葉枯病抵抗性品種を作付けしている水田であっても、ヒメトビウンカの増殖場所となるため、本病の多発生地域では防除を行う。

イネ縞葉枯ウイルス保毒虫率の高い地点が認められています。
水田でのヒメトビウンカの適期防除を行きましょう。

イネ縞葉枯病は、ヒメトビウンカによって媒介されるウイルス病であり、多発するとイネが減収します。発病すると治療はできないため、ヒメトビウンカを対象とした防除が重要です。

本年の小麦圃場における10回振りすくい取り虫数は平年並であり、保毒虫率の高い地点も認められていることから、イネ縞葉枯病対策のため、適期に水田でのヒメトビウンカの防除を行きましょう。

[現在の状況]

- ① 5月に採集したヒメトビウンカ第一世代幼虫において、イネ縞葉枯ウイルス保毒虫率が5%以上の高い値であったのは、県西・県南地域11地点中2地点であった(表1)。
- ② 5月28日現在、有効積算温度から計算した水田におけるヒメトビウンカ第一世代成虫の産卵最盛日は、平年よりやや早いと予測される(表2)。なお、今後の気温の推移によっては、表に記載した産卵最盛日および防除適期は数日程度変わる可能性がある。

表1 ヒメトビウンカ第一世代幼虫のイネ縞葉枯ウイルス保毒虫率の年次推移

地域	調査地点	イネ縞葉枯ウイルス保毒虫率 (%) ¹⁾					
		令和4年	令和5年	令和6年	令和7年	本年 ²⁾	
県西	古河市 水海	5.3	2.7	1.1	2.0	3.7	
	結城市 結城	7.4	3.2	7.4	1.1	2.1	
	下妻市 高道祖	2.7	1.1	4.3	1.6	4.8	
	常総市 三坂町	3.2	1.1	3.7	2.7	3.2	
	筑西市 二木成	3.2	5.9	5.9	5.3	2.1	
	坂東市	矢作	— ³⁾	2.1	2.7	5.9	—
		神田山新田	—	—	—	—	3.7
	桜川市	加茂部	5.3	5.9	4.3	2.1	4.8
		原方	2.1	4.8	3.7	3.2	6.9
	八千代町 高崎	6.4	5.3	13.8	4.3	5.3	
県	つくば市 大形	3.7	3.2	2.7	2.1	3.2	
南	つくばみらい市 市野深	1.6	5.3	3.2	4.3	4.3	

1) 簡易ELISA法により検定した。

2) 採集日：令和8年5月13～20日、検定実施日：5月25日。

サンプル数：各地点94～188頭。

3) —：未調査

表2 水田におけるヒメトビウンカ第一世代成虫の予測産卵最盛日および予測防除適期*

アメダス地点		古河	下館	下妻	つくば	土浦	笠間	水戸
予測産卵最盛期	本年	6/4	6/10	6/9	6/9	6/8	6/16	6/14
	平年値	6/8	6/13	6/12	6/13	6/11	6/17	6/15
予測防除適期	本年	6/4-11	6/10-17	6/9-16	6/9-16	6/8-15	6/16-23	6/14-21

※有効積算温度から予測した産卵最盛日(5月28日現在)。防除適期は、予測した産卵最盛日から7日後までの間。



水稲のいもち病の防除について

[現在の状況]

5月下旬現在、調査圃場の置苗での本病の発生は認めていない。

[発生好適条件]

気温 20～25℃で、弱い雨や霧などが続いてイネの葉が長時間濡れるような条件のとき、一般的に6月の高温多湿、7～8月の低温多雨は発生を助長する。

[防除上注意すべき事項]

- ① 置苗は本病の発生源となるため、速やかに本田から持ち出して適切に処分する。
- ② 常発地で、育苗箱施用剤を使用していない水田では、特に発生に注意する。
- ③ 本病は例年6月下旬から発生する。粒剤による本田防除の適期は初発前～初発時なので、適期を逃さずに防除する。
- ④ 粒剤の施用時期と中干しの時期が重なる場合には、中干し後に必ず湛水状態にしてから粒剤を散布する。

防除所 HP にて、6月より BLASTAM（アメダスデータを利用した葉いもちの発生予測プログラム）による葉いもちの感染好適日の出現状況を随時掲載する予定ですのでご参照ください。

ナ シ

1. 黒星病

[予報内容]

発生時期	発 生 量	発生地域
—	平年並～やや多い	県下全域

[予報の根拠]

- ① 5月下旬現在、葉における発病率（本年値 0.1%、平年値 0.2%）、発生地点率（本年値 10%、平年値 16%）ともに平年並である。
- ② 5月下旬現在、果実における発病率（本年値 0.3%、平年値 0.3%）、発生地点率（本年値 25%、平年値 24%）ともに平年並である。
- ③ 気象予報によると、向こう 1 か月の降水量は平年より多いと予想され、発生を助長する条件である。

[防除上注意すべき事項]

- ① 発病した葉および果実等は二次伝染源となるため見つけ次第除去し、園外に持ち出して適切に処分する。
- ② 薬剤散布は、発病部位を除去した後にを行うとより効果的である。
- ③ 薬剤は、10a 当たり 300 リットルを目安に丁寧に散布する。圃場の周縁部等、薬液のかかり

にくい部分に対しては、手散布等により補正散布を行う。
(ナシ 続き)

2. ナシヒメシンクイ（第二世代幼虫）

[予報内容]

発生時期	発生量	発生地域
やや早い	やや多い	県下全域

[予報の根拠]

- ① 5月中旬現在、第一世代成虫の発生時期は、越冬世代成虫のフェロモントラップへの誘殺最盛期と有効積算温度から、平年よりやや早いと予測される。
- ② 5月第3半旬までのフェロモントラップへの総誘殺数は、小美玉市では平年より多く、笠間市、筑西市（下館地域）ではやや多く、筑西市（関城地域）、土浦市では平年並、かすみがうら市では平年並～やや少ない。

[防除上注意すべき事項]

- ① 今後、第二世代幼虫が発生するため、下記の防除所レポートを参考に適期防除に努める。
- ② 薬剤は、10a 当たり 300 リットルを目安に丁寧に散布する。圃場の周縁部等、薬液のかかりにくい部分に対しては、手散布等により補正散布を行う。

防除所レポート【ナシヒメシンクイの防除適期の予測】

- ① ナシヒメシンクイ第二世代幼虫を対象とした防除適期は、**第一世代成虫の誘殺数がピークに達した日の7～9日後**である。
- ② 各地点の第二世代幼虫の予測防除適期（表）は、平年よりやや早い。
- ③ 表中のかすみがうら市、土浦市、筑西市（下館地域）については、今後、病害虫防除所ホームページで誘殺状況を随時更新するので参考にする。

表 調査圃場におけるナシヒメシンクイ第二世代幼虫の予測防除適期

地点	第二世代幼虫の予測防除適期 ¹⁾		
笠間市	6月17日	～	6月20日
小美玉市	6月12日	～	6月15日
石岡市	6月12日	～	6月17日
かすみがうら市	6月12日	～	6月17日
土浦市	6月9日	～	6月13日
筑西市（下館地域）	6月9日	～	6月12日
筑西市（関城地域）	6月11日	～	6月14日

1) 第一世代成虫の誘殺最盛期を基に予測した(5月29日現在)。

果樹共通

1. 果樹カメムシ類（チャバネアオカメムシ、ツヤアオカメムシ、クサギカメムシ）

[予報内容]

発生時期	発生量	発生地域
—	多い	県下全域

[予報の根拠]

- ① 本年2月上旬に県内42地点で行ったチャバネアオカメムシ成虫の越冬調査では、越冬成虫数（本年値2.1頭、平年値2.3頭）は平年並、越冬地点率（本年値55%、平年値41%）は平年並～やや高い（令和8年3月25日発表 病害虫発生予報4月号 参照）。
- ② 5月第4半旬までのかすみがうら市の果樹園内に設置した予察灯へのチャバネアオカメムシの総誘殺数（本年値960頭、平年値130頭）は平年より多い。
- ③ 5月第4半旬までのかすみがうら市の果樹園内に設置した予察灯へのツヤアオカメムシの総誘殺数（本年値331頭、平年値29頭）は平年より多い。
- ④ 5月第4半旬までのかすみがうら市の果樹園内に設置した予察灯へのクサギカメムシの総誘殺数（本年値30頭、平年値1頭）は平年より多い。

[防除上注意すべき事項]

- ① カメムシ類の園内への侵入を防ぐため、多目的防災網（目合い6mmまたは9mmクロス等のネット）やサイドネットに破れがないか点検を行う。
- ② カメムシ類は夜温が高くなると活動が活発になり、果樹園に飛来する。果樹園内でカメムシ類を確認した場合は、活動の鈍い早朝に薬剤防除を行う。
- ③ カメムシ類の発生時期や発生量は地域や圃場によって異なるため、定期的に圃場全体を観察し、早期発見と薬剤による初期防除を徹底する。

（令和8年5月20日発表 病害虫速報No.3 参照）

半促成ピーマン

1. アザミウマ類

[予報内容]

発生時期	発生量	発生地域
—	やや多い	鹿行地域

[予報の根拠]

- ① 5月下旬現在、被害葉率（本年値11.0%、平年値0%）、発生地点率（本年値50%、平年値0%）ともに平年より高い。
- ② 5月下旬現在、被害果率（本年値7.8%、平年値5.6%）は平年よりやや高く、発生地点率（本年値50%、平年値55%）は平年並である。
- ③ 5月下旬現在、寄生花率（本年値53.5%、平年値72.3%）は平年よりやや低く、一花あたりの寄生虫数（本年値6.7頭、平年値7.6頭）は平年並である。

[防除上注意すべき事項]

- ① アザミウマ類は増殖が速く、各種ウイルスを媒介するので発生が少ないうちに防除を徹底する。
- ② 薬剤散布は、葉液が葉裏にもよくかかるよう十分な量で丁寧に行う。また、薬剤抵抗性の発達を抑えるため、IRACコードの異なる薬剤をローテーション散布する。
- ③ 天敵を使用する場合は、薬剤の影響日数等に十分注意する。

夏ネギ

1. ネギアザミウマ

[予報内容]

発生時期	発生量	発生地域
—	やや多い	県下全域

[予報の根拠]

- ① 5月下旬現在、被害度※(本年値 28.0、平年値 26.2)は平年並、芯葉の被害株率(本年値 82.5%、平年値 70.8%)は平年よりやや高い。
- ② 気象予報によると、向こう 1 か月の気温は平年より高いと予想され、発生を助長する条件である。

※被害度：食害の程度をもとに算出した数値、最小値は 0 で最大値は 100 となる。

[防除上注意すべき事項]

- ① 気温の上昇に伴って増殖が速くなるので、発生圃場では速やかに防除を実施する。
- ② 雑草にも寄生するため、圃場周辺の除草を徹底する。
- ③ 薬剤散布は、必要に応じて展着剤を加用して丁寧に行う。また、収穫前日数に十分注意する。
- ④ 薬剤抵抗性の発達を抑えるため、IRAC コードの異なる薬剤をローテーション散布する。

【その他の病害虫】

作物	病害虫名	発生予測	発生概況及び注意すべき事項
水稲	イネゾウムシ	発生量：多い	5月下旬現在、平年より多い発生である。
	イネハモグリバエ		
	イネドロオイムシ	発生時期：やや早い 発生量：平年並	5月下旬現在、平年並の発生である。曇雨天が続くと発生が助長されるので注意する。幼虫の発生が多く、食害が目立つ場合は防除を行う。
	イネミズゾウムシ	発生量：平年並	5月下旬現在、平年並の発生である。イネの初期生育が遅い水田、育苗箱施用剤を使用していない水田では発生に注意する。
	ニカメイガ		5月下旬現在、直近1か月間のフェロモントラップへの誘殺数は、水戸市および龍ヶ崎市で平年並である。
ブドウ	灰色かび病	発生量：平年並	5月下旬現在、平年並の発生である。
	べと病		
ピーマン 半促成	斑点病	発生量：やや多い	5月下旬現在、平年よりやや多い発生である。
	うどんこ病	発生量：平年並 ～やや多い	5月下旬現在、平年並～やや多い発生である。
	タバコガ	発生量：やや多い	5月下旬現在、平年よりやや多い発生である。
夏ネギ	べと病	発生量：平年並 ～やや多い	5月下旬現在、平年並の発生である。向こう1か月の降水量は多いと予想され、発生を助長する条件である。
	黒斑病(葉枯病を含む)	発生量：平年並	5月下旬現在、平年並の発生である。
共通害虫	シロイチモジヨトウ	発生量：平年並 ～やや多い	5月下旬現在、直近1か月間のフェロモントラップへの誘殺数は、つくば市で平年並～やや多い。

コムギの適期収穫に努めましょう

- ① 収穫が遅れたり、倒伏した部分があると、赤かび病の被害粒から健全粒へと感染が広がったり、DON濃度が高まるおそれがあるため、適期収穫に努めるとともに、倒伏した部分は刈り分けて処分する。
- ② 収穫後は時間をおかずに適切な乾燥・調製を行う。
- ③ コムギでは、グレーダーによる粒厚選別(2.4mm以上)等は被害粒の除去に有効である。

サツマイモ基腐病の防除対策

【植付前】

いも苗は、植付前に必ず消毒しましょう！

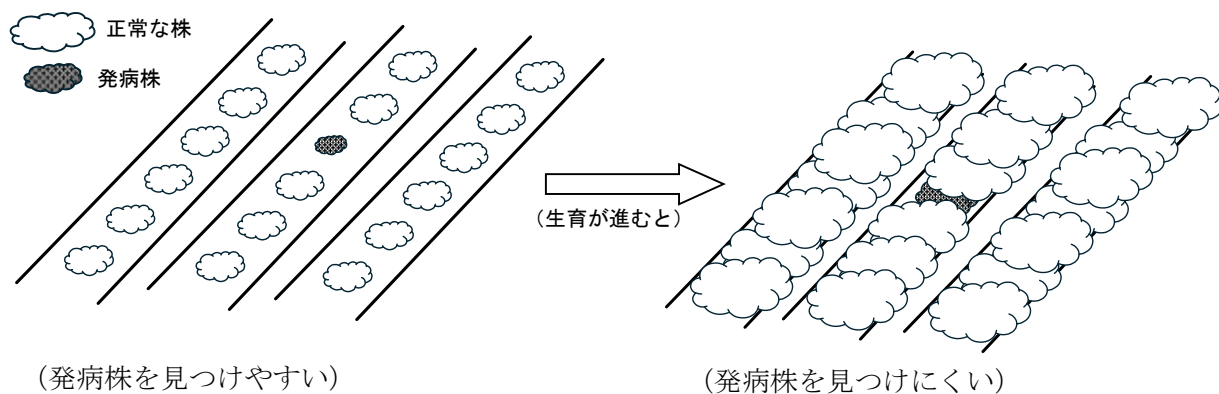
- ベンレート水和剤、ベンレートT水和剤20：植付前に30分間、苗全体を薬液に浸漬
- トリフミン水和剤：植付前に17時間、苗の基部を薬液に浸漬（令和8年4月1日現在）

※薬液は使用当日に調製し、農薬登録の内容に従って浸漬処理を行きましょう。
(薬液の作り置きはしない)

【圃場に苗を植え付けたら】

定期的に圃場の見回りを行い、異常株を早期に発見しましょう！

- 基腐病に感染し発病した株が圃場に残っていると、降雨等で大量の胞子が拡散し、圃場内で本病がまん延します。
- 圃場の株の発病は、よく注意して見ていないと気付きにくいいため、定植後2か月間は、2週間に1回程度、地上部に異常がないか確認しましょう。



[発病株の特徴]

- 生育が悪く、全体が黄色や赤色に変色している。
- 株の基部が暗褐色～黒色になっている。

疑わしい株を見つけた場合は、**速やかに普及センターに連絡してください。**

○予防対策の徹底と防疫措置を強化するため、令和8年4月に遵守事項の見直しを行いました。

<サツマイモ基腐病に関する遵守事項について(改定後)> →



Ⅱ. 今月の気象予報

関東甲信地方1か月予報

(予報期間 5月30日から6月29日)

気象庁(5月28日発表)

<向こう1か月の気温、降水量、日照時間の各階級の確率(%)>

[確率]

要素	予報対象地域	低い(少ない)	平年並	高い(多い)
気温	関東甲信全域	10	30	60
降水量	関東甲信全域	20	40	40
日照時間	関東甲信全域	30	30	40

[概要]

期間の前半は、天気は数日の周期で変わりますが、平年に比べ曇りや雨の日が少ないでしょう。期間の後半は、平年と同様に曇りや雨の日が多いでしょう。

<1週目の予報> 5月30日(土曜日)から6月5日(金曜日)

気温 関東甲信地方 高い確率80%

<2週目の予報> 6月6日(土曜日)から6月12日(金曜日)

気温 関東甲信地方 平年並または高い確率40%

<3週目から4週目の予報> 6月13日(土曜日)から6月26日(金曜日)

気温 関東甲信地方 高い確率60%

農薬を使用する際は

- 1 使用する農薬の「ラベル」と登録変更に関する「チラシ」等を必ず確認し、適用作物、使用方法、注意事項等を守りましょう。
- 2 散布時には、周辺作物に飛散(ドリフト)しないよう注意しましょう。
- 3 農薬の使用状況を正確に記録しましょう。
- 4 薬剤抵抗性の発達を抑えるため、作用機構分類(FRACコード、IRACコード)の異なる薬剤を用いてローテーション散布しましょう。
- 5 農薬の使用後は、散布器具やホース内等に薬液が残らないように良く洗浄しましょう。